



# 祐介の目

ひぐちきいちろう  
樋口季一郎と

ユダヤ人

東京の図書館や書店で「アンの日記」等のユダヤ人迫害関連本が相次いで破られるという事件が発生し、容疑者が逮捕された。福山には「ホロコースト記念館」もあり、胸を痛めた人も多かったのではないか。そしてこの事件を機会として改めてユダヤ人迫害の歴史がクローズアップされた。

皆さんは、歩兵第四一連隊の第一七代連隊長・樋口季一郎とユダヤ人の関わりをご存知だろうか。樋口は福山の連隊長を務めた後、昭和十三年三月に満州国ハルピンの特務機関長となった。そこで多くのユダヤ人がナチスの迫害から逃れるため、ソ連・満州国の国境まで避難している事を知られた。樋口は凍死者がでる惨状を見かね、独断でユダヤ人に対して給食と衣類・燃料を配給し、要救助者への加療を実施した。さらに出国の斡旋、満州国内への

No.32

大田ゆうすけ  
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

入植の斡旋、上海租界への移動の斡旋等を行ったそうだ。これは杉原千畝が「命のビザ」を発給する二年前の義挙であり、一説には二万人のユダヤ人の命が救われたという。

敗戦後の二〇年八月一日、ソ連軍は千島列島最北端の占守島に上陸してきた。北部軍司令官の樋口は、一日に出された大本営の停戦命令を無視してこの千島侵攻部隊に痛撃を与えた。これにより北海道はソ連領となることを免れたと言われている。スターリンは樋口を戦犯に指名したが、世界ユダヤ協会はいち早くこの動きを察知し、世界中のユダヤ人コミュニティが樋口救出運動を展開した結果、米国はソ連からの樋口引き渡し要求を拒否した。

杉原が「日本のシンドラー」と評価されるに対して樋口の名前があまりにも知られていないのはなぜか。それは彼が軍人であったからだろう。軍事に対するアレルギーは根強いが、東日本大震災を機会に自衛隊に対する評価も大きく変わった。樋口季一郎は福山との縁も深く、名誉市民にしてもおかしくないとい個人的には感じている。軍人だったという理由で無視される国は日本くらいではなからうか。